

琉球大学「会計学特殊講義」
2015年8月17日(月)～8月21日(金)

石川純治

- 前回の集中講義：15年前の2000年8月

もう15年も前になりますので、何をお話ししたか今は定かに覚えていませんが、拙著『時価会計の基本問題』が2000年3月発行されているので、それに即した内容だったかと思えます。

よく覚えているには、講義に参加した多くの学生諸君の熱心な学習態度と、当時石嶺にあった趣のある古い宿泊施設（現在は無い）です。

- 今回の集中講義の狙い：変貌する現代会計の見方・捉え方

今回は最新の拙著『揺れる現代会計』（日本評論社）をテキストに「ブログ」連載中のものも交えてお話ししたいと思います。

講義の狙いは、ずばり会計プロフェッションの相対化です。その意味するところは、同書の「まえがき」を参照下さい。

- 講義の内容：

- I) イントロダクション（初回）

今回の講義のキーワードは、ずばり「相対化」です。そこで、講義のはじめに「相対化の意義とその力」という点についてお話しします。

HP掲載の「私が考える教養教育ーリベラルアーツとはー」に即してお話しします。

- II) 放送大学の講義ダイジェンス（3回ほど）

8年前から放送大学のTV番組で会計学の講義を担当しています。そこで、琉球大学の皆さんにそのダイジェスト版（第6回～第12回の7回分）をカラー・スライド（NHKエデュケーショナル作成）を用いてお話しします。

- III) 変貌する現代会計の見方・捉え方ー相対化の視点（10回ほど）

今回のメインテーマです。テキスト『揺れる現代会計』に即して、ブログなども交えて、お話しします（目次参照）。事前に、同書の「まえがき」と「あとがき」を読んでいただければと思います。

- 成績評価

最終回に筆記試験（60分）を予定しています。受講者の誰でもそれぞれのレベルに応じて書ける設問です。難問はありません。

● 『揺れる現代会計』のパートⅠの目次

Ⅰ IFRSの相対化

- 1 「金融・開示・取引法」優位の現代会計－経済・会計・法の総体的視点
- 2 資本主義の多様性とIFRS－英米型世界標準の史的相対
- 3 市場・企業・社会と会計－IFRSの相対視点と中小企業会計の意義

Ⅱ 制度会計のハイブリッド性

- 4 「会社とは何か」と会計－誰のための会計
- 5 インフォームド・コンセントとフィデューシャリー－医者・患者関係と現代会計
- 6 不確実性と現代会計－「不確実性の経済学」の視点から

Ⅲ ハイブリッドの矛盾性

- 7 貸借対照表の現代的変容－その形と方向
- 9 OCIの諸相－OCI／リサイクリングの相対化

Ⅳ プロフェッションとアカデミズム

- 10 会計の政治化と規制の経済理論－メタの視点と「理論」のあり方
- 11 現代会計の歴史性－史的システムとしての会計
- 12 概念フレームワークの制度性－会計的支配機構という見方

Ⅴ 古典と現代

- 13 衣装哲学と会計の本質－「慣習」の力
 - 14 アカウンティングとファイナンスの交錯－岩田巖と現代
 - 15 社会科学としての現代会計論－擬制資本・信用制度・株式会社論と現代会計
- 補遺 現代会計の変容をどう見る－「公正価値会計」とは
付論：「計算のフレームワーク」と「情報のフレームワーク」－現代会計の変容の捉え方

● テキスト・参考書など：

テキスト：石川純治『揺れる現代会計』日本評論社、2014年（1800円）

放送大学TV番組「社会のなかの会計」全15回、放送中

〔 DVD教材：全国の放送大学学習センター（※沖縄地区は琉球大学内）でDVD学習
※琉球大学 地域国際学習センター棟内
印刷教材：『社会のなかの会計』NHK出版、『変貌する現代会計』日本評論社

● ウェブサイト：<http://www.komazawa-u.ac.jp/~ishikawa/profile.htm>

講演コーナーの「私が考える教養教育－リベラルアーツとは－」、

ブログなど参照。

※お詫び：当方の事情により、集中講義が中止になりましたこと、ここに切にお詫び申し上げます。また別の機会があれば幸いです。